

3 偏微分とスカラーポテンシャル

1 以下の問に答えよ。

(1) f が原点からの距離 $r = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2}$ のみの関数であるとき

$$\nabla f = \frac{df}{dr} \frac{\mathbf{r}}{r}$$

が成り立つことを示せ。ただし, $\mathbf{r} = (x, y, z)$ とする。

(2) 原点に電荷 e が置かれているとき, $r = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2}$ における静電ポテンシャルは $U = \frac{e}{4\pi\epsilon_0 r}$ によって与えられる (ϵ_0 は真空の静電率)。電場 $\mathbf{E} = -\nabla U$ を求めよ。

2 $\mathbf{H} = k(y, x)$ で表される磁場がある。

(1) 上の磁場が導かれるような磁位 φ , すなわち $\mathbf{H} = -\nabla\varphi$ を満たす関数 φ を求めよ。

(2) 等磁位線を描き, 磁場の方向を示すおおよその図を描け。

3 3次元直交座標系 (x, y, z) における微分演算

$$\nabla = \mathbf{i} \frac{\partial}{\partial x} + \mathbf{j} \frac{\partial}{\partial y} + \mathbf{k} \frac{\partial}{\partial z}, \quad \mathbf{i} = (1, 0, 0), \mathbf{j} = (0, 1, 0), \mathbf{k} = (0, 0, 1)$$

は, 3次元極座標系 (r, θ, φ) ($x = r \sin \theta \cos \varphi, y = r \sin \theta \sin \varphi, z = r \cos \theta$) では

$$\nabla = \mathbf{e}_r \frac{\partial}{\partial r} + \mathbf{e}_\theta \frac{1}{r} \frac{\partial}{\partial \theta} + \mathbf{e}_\varphi \frac{1}{r \sin \theta} \frac{\partial}{\partial \varphi}, \quad \mathbf{e}_r, \mathbf{e}_\theta, \mathbf{e}_\varphi \text{ は } r, \theta, \varphi \text{ 方向の単位ベクトル}$$

となることを示し, $\mathbf{e}_r, \mathbf{e}_\theta, \mathbf{e}_\varphi$ を θ, φ を用いて表せ。